

## 学内での活動

- 1 「岐阜おおがきビエンナーレ2013 -LIFE TO LIFE 生活から生命へ」の企画・運営  
(開催日時：2013年9月6日～9月16日、開催場所：IAMAS校舎他)

学内プロジェクト「ATP (アートを/で考えるプロジェクト)」において、「岐阜おおがきビエンナーレ2013」の作家サポートおよび運営協力を行った。

※ 別紙参照 「岐阜おおがきビエンナーレ2013実績概要」

## 学外での文化的活動

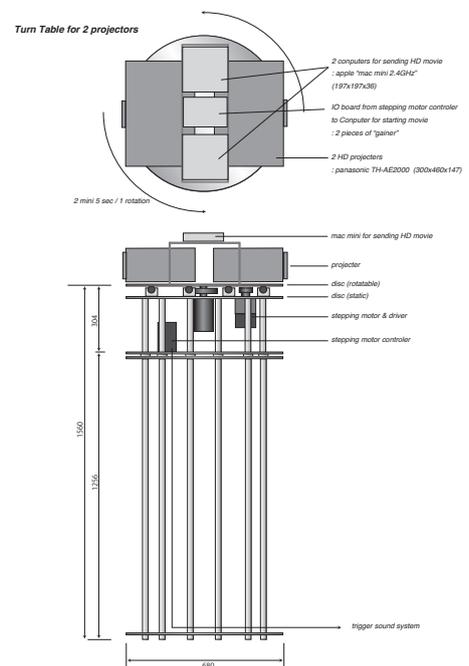
- 1 作品「BEACON 2014 memento」の制作・展示発表  
(開催日時：2014年1月24、25、26日、開催場所：葬想空間 スペースアデュー、東京)
- 3 作品「BEACON 2014 in flux」の制作・展示発表  
(開催日時：2014年3月27日～30日、開催場所：元立誠小学校)

作品「BEACON 2014 memento」および作品「BEACON 2014 memento」は、イベント企画「横浜都市文化ラボ『パノラマプロジェクト』」(※1)への参加作品として、前者は、2014年1月24日から26日まで、東京「葬想空間 スペースアデュー」で、後者は、3月27日から30日に京都、元立誠小学校において、それぞれ発表・展示されたメディア・インスタレーション作品である。

BEACONとは篝火、また燈台や標識の意味をもつ言葉。インスタレーション作品『BEACON』は、二台のプロジェクターから映し出される映像が会場内を周回するという特殊な視覚装置で、観客は移動する二つの映像を目で追いかけながら部屋を見回すことになる。映像と会場の風景が重なり合うことによって、記憶と現実が交錯するくそこにはない場所>が生まれ、人間の記憶の不確かさ、脳の中に眠っているさまざまなイメージを呼び起こす。これまでの数回の展示ごとに大きな反響を起こしてきたが、今回はこの作品の新しい二つのバージョンを発表展示した。

※ 横浜都市文化ラボ『パノラマプロジェクト』

主催：文化庁、横浜国立大学 制作：横浜国立大学・横浜都市文化ラボ(室井尚)  
文化庁委託事業「平成25年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」



## 「BEACON 2014 memento」 概要と特徴

- 1 会場：葬想空間 スペースアデュー（東京）
- 2 開催日時：2014年1月24、25、26日
- 3 「BEACON 2014 memento」 作品概要

### 空間の特異性

今回の「BEACON 2014 memento」では、葬儀場という特異な空間を作品空間としたサイトスペシフィック性を帯びた展示となる。葬儀場のホールをカーテンで仕切り、棺の置かれた舞台と回転装置のある映像空間に分ける。また投影された映像をカーテンの裏側（棺側）から見る視点を与えることにより、こちら側（現世側）からの視線と向こう側（死者側）からの視線を象徴的に提示する。

### 映像と現実空間との重なり

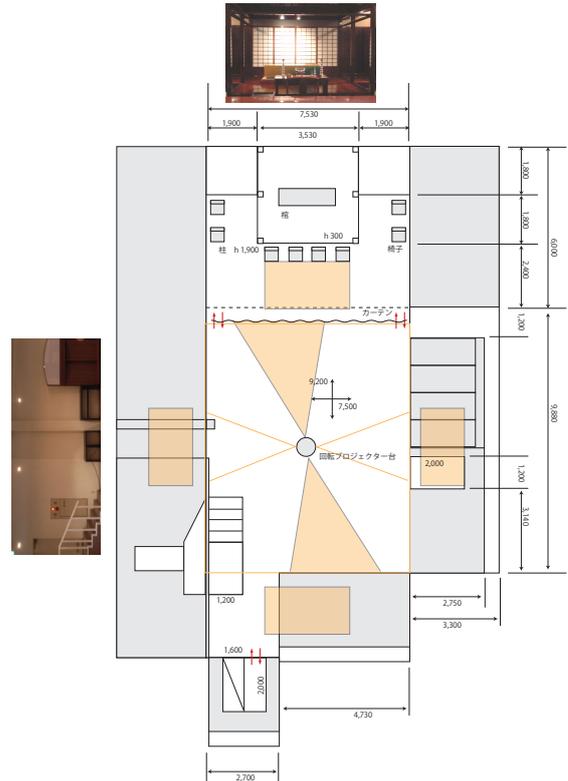
今回のBEACONにおいても、人物の出入りやドアの開閉など、展示場所であらかじめ撮影した映像を同じ空間に重ね合わせて投影することにより、現実空間と映像による仮想空間の揺れを観客に体感させる。またカーテンへの棺の映像の投影などを介して、観客に向こう側（棺側）への意識を促す。

### 映像の開始・終了

投影映像のシーケンスは、人物が棺に入る映像から始まり、16分程度の映像シーンの後、同じ人物が棺から出る映像で終わる。投影映像に大きな物語的構成を与えることにより、投影映像の空間が、棺内からの想起であるような印象を持たせる。

### 映像と音響

音響は、コンセプトテキストの読み上げ、及び現場音によって構成された。映像シーケンスとは独立（非同期）に音響シーケンスを構成することにより、両者の組み合わせは周期ごとに異なる。意図しない、その場一回限りの効果が生みだされることが目指された。



## 4 展示記録風景



展示風景1



展示風景2

## 「BEACON 2014 in flux」 作品概要

- 1 会場：元立誠小学校、木工室（京都）
- 2 開催日時：2014年1月24、25、26日
- 3 「BEACON 2014 in flux」 作品概要

### 映像と現実空間との重なり

「BEACON 2014 in flux」では、黒板や窓を効果的に使うことを試みた。あらかじめ撮影された戸外の映像を遮光された窓に正確に重なるように投影し、展示会場の窓が変化する効果を出す。また黒板に線を引く人物を撮影し、再びもとの黒板に重なるように投影するなど、展示会場という現実空間の変容を演出した。

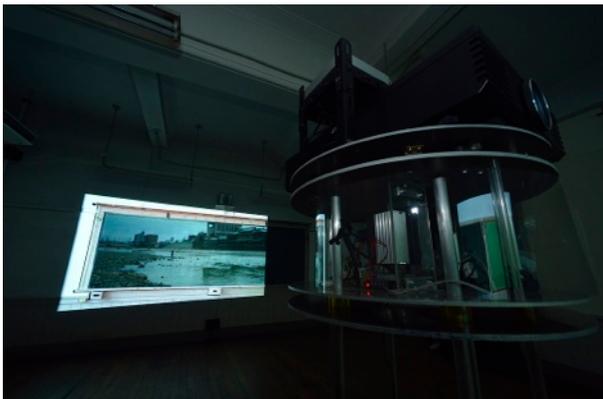
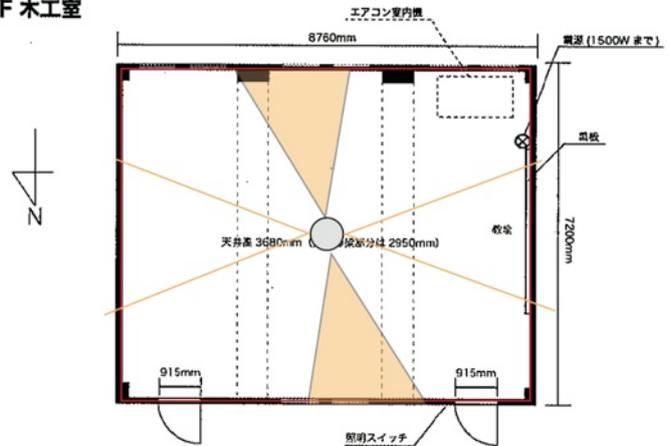
### 映像シーケンス

全体のテーマ「水、流れ」をもとに撮影場所を決定する。福井の海岸風景から、鴨川、高瀬川、会場となる校舎などを撮影素材として用いる。今回の作品では、特に、展示会場となる木工室の黒板を利用し、黒板に引かれた一本の線が海の水平線へと展開し、最後に再び会場に戻るなど映像の流れや展開を物語的に構成した。

### 自動回転台による撮影

BEACONでは、撮影に映像投影装置と同速度で回転する回転台にビデオカメラを設置し撮影する。撮影においては通常のカメラと異なり撮影者がファインダーを覗くことはない。そのため通りすがりの人物は撮影されているという意識を持つことなく映像に映り込むことになる。この撮影装置の一つの特性が、何気ない日常の風景を投影するという作品「BEACON」の特性と繋がっている。

1F 木工室



右上、右下 展示風景  
投影画面および2台のプロジェクターを設置した回転台